

第2次 長期目標 2020～2029（大学部門 2020.3 策定）

大学部門 教育・研究基盤整備	
(1)中期計画の策定	学長のもと、大学部門として令和2(2020)年度から5年間の第1期中期計画を策定し、中間地点での見直し、最終年度の見込み評価を行い、令和6(2024)年度に令和7(2025)年度から5年間の第2期中期計画を策定する。同様に中間地点での見直し、最終年度の見込み評価を行って、次期中期計画を策定するPDCAを確立する。
(2)教育研究等の質の向上に関する事項	
1) 教育基盤整備	学長のリーダーシップのもと全学的教学マネジメント体制を確立し、教育内容、教育組織、学生支援、国際交流等にかかる改革・改善を継続的に推し進め、18歳人口が100万人を下回る時代においても、女子大学としての存在意義を発揮し続けられるよう教育基盤整備を完了する。
2) 研究基盤整備	教育の基盤となる研究について、大学としての基本方針を明確にしてマネジメント体制を整備し、各研究者が一定の基準で公平に研究できる環境を維持しながらも、教学関係予算の在り方を見直し、全学的に推進すべき課題や重点的に支援すべき研究等を選択して、戦略的に本学の研究水準を向上する。
3) 社会連携・社会貢献	本学の保有する知的資源を活用した産官学連携や国際共同研究等の学術交流を促進するとともに、地域社会の生涯学習ニーズに対応した公開講座や、社会人の学び直し・スキルアップを支援するリカレント教育課程等の教育体制を充実させ、本学の特色として確立する。また、京都東山に所在する特色を生かし、文化的・歴史的環境を最大限に活用して文化の考究と創造・発信に寄与する。
4) 卒業生ネットワーク	同窓会組織との連携に留まらず、個々の卒業生と大学との繋がりを強化し、卒業生の帰属意識を高めるとともに、在学生の教育活動、就職活動、さらには研究の分野においても常に協力が得られる体制を整備する。
(3)入学者獲得	基本理念を踏まえ、大学あるいは学部・学科の特色に応じた実質的なアドミッション・ポリシーを策定するとともに、18歳人口100万人時代に対応した入学者選抜方法及び高大接続方法を確立する。
(4) 魅力あるキャンパスの構築・活用等	耐震化100%を早期に達成して、学生主体の様々な交流が生まれる魅力あるキャンパスの整備を完了するとともに、計画的に施設・設備の改修整備を実施してキャンパスの安全確保や美観維持に努める。また、高等教育機関として求められるキャンパスの情報化、高度化に対応する。

京都女子大学 第1期 中期計画 2020～2024

2. 大学部門 教育・研究基盤整備
(1) 中期計画の策定
(ア) 中期計画の策定 学園全体で作成された中長期計画をベースに、大学部門におけるより具体的な5年間の中期計画の策定に取り組み、中間地点での見直し、最終年度の見込み評価を行って、次期中期計画を策定するPDCAの確立を目指す。
(2) 教育研究等の質の向上に関する事項
1) 教育基盤整備
(ア) 学部・学科等組織の改編(改組) 本学の教育資源や社会的ニーズを踏まえて、学部・学科等組織の改編に年次計画で取り組み、理系あるいは文理融合分野の開設、副専攻や学位プログラムの実現など、多様で柔軟なプログラムの整備を視野に入れた改革を目指す。 学士課程改革の方向性に合わせて大学規模に適した大学院組織・規模への改編に取り組み、定員管理の適正化を目指す。 京都女子大学におけるSDGsやダイバーシティへの取り組み方針を確立し、具体的な取り組みを開始する。
(イ) 教育内容及び教育の成果等 学生一人ひとりが、どのような力を身につけ、どのように成長できたかを実感できる教育課程・内容を全学的な教養教育の観点を含めて整備するとともに、学修成果の可視化に取り組み、3ポリシー及びアセスメントポリシーを踏まえた内部質保証にかかるPDCAを適切に機能させ、IRを活用して評価・改善につなげられる教学マネジメント体制の確立を目指す。
(ウ) 教育の実施体制等 教育理念・教育目標を達成するために適切な教員組織を編成するとともに、教育の質の改善のための教育設備の整備やFD活動の推進を目指す。
(エ) 国際化 「京都女子大学国際化方針(2016～2020)」を踏襲する形で、次期国際化方針を策定し、引き続き本学学生の留学を奨励するとともに、本学への留学生の受入れを促進するために、留学希望者のための英語及び初修外国語教育の充実や受入れ留学生のための日本語教育を充実させ、派遣学生、受入留学生ともに増員を目指す。
(オ) 情報教育 数理・データサイエンス等の基礎的な素養を持ち、正しく大量のデータを読み解き、新たな価値を創造できる能力を育成するため、全学共通の情報教育課程の確立を目指す。
(カ) 学生支援 社会人、留学生、障がいのある学生、メンタルケアを必要とする学生、経済的に問題を抱えた学生など、多様化する学生の課題に対応できるよう修学支援環境の整備を目指す。
(キ) 進路・就職支援 低学年時からのキャリア意識の醸成、自己啓発機会の充実に努め、学士課程教育の成果の指標として重要視される実就職率の向上、及び進路・就職内容の充実に教職協働体制で取り組み、誰一人取り残さない支援体制を目指す。
2) 研究基盤整備
(ア) 研究水準及び研究の成果等 本学における研究の多様性を尊重し、研究者の特性に応じた研究活動を支援する。
(イ) 研究実施体制等 本学の有する知的資源の活用や多様な研究及び特色ある研究を効率的、持続的に推進するためのマネジメント体制の整備を目指す。 女子大学として女性研究者の育成に取り組むとともに、若手教員が研究力を向上できる環境の整備を目指す。
3) 社会連携・社会貢献
(ア) 産官学連携 地域社会との持続的な連携を行い、地域社会活性化への貢献を目指す。 公的機関・企業等との共同研究・受託研究等を積極的に推進し、社会・経済の発展に寄与し、本学の教育研究活動の基盤向上を目指す。
(イ) 多様な学びの機会提供 生涯学び続ける機会の充実を目指す。 女性の社会復帰やスキルアップを目的とした履修証明プログラムとしてのリカレント教育課程の継続・発展に取り組み、本学の重要な機能としての確立を目指す。
(ウ) 研究所 各研究所の地域社会における存在意義を明確にし、適切に点検評価を行って、社会貢献し続けられる運営を目指す。
4) 卒業生ネットワーク
(ア) 卒業生ネットワーク 卒業生との関係を強化し、本学の様々な教育研究における連携を目指す。
(3) 入学者獲得
1) 入試制度改革 アドミッション・ポリシーをより実質化し、求める人材と整合性のとれた入試制度の確立を目指す。

2) 戦略的広報と募集活動の充実
受験生や資料請求者の情報を適切に分析し、効果的に広報活動を展開するとともに、高校現場との連携を強化して、本学の求める人材の確保に繋がる高大接続の確立を目指す。
(4) 魅力あるキャンパスの構築・活用等
1) キャンパスの維持・整備
将来的な校舎建築用地として、中心校地に隣接する有効な土地の取得を目指す。
第三次東山キャンパス整備計画を策定し、高等学校・中学校及び小学校のキャンパス整備との工程を整理して、早期の耐震化100%達成を目指す。
計画的に施設設備の修繕を実施し、常に安全で美しいキャンパスの維持を目指す。
2) 情報環境整備等
第二次ICT整備計画を策定し、一定の予算の範囲内で計画的な情報設備の整備を目指す。
事務の効率化を目的とした情報環境の整備を目指す。
3) 安全管理
学生の安心・安全を確保できる体制整備を目指す。